

本のプロたちがご案内「わたしは真悟」をもっと楽しむ24冊！



悪童日記 / ふたりの証拠 / 第三の嘘

アゴタ・クリストフ (堀 茂樹訳) | ハヤカワ epi 文庫

ハンガリー出身の亡命作家、アゴタ・クリストフの三部作。戦下の「小さな町」に住む祖母に家に疎開した「ぼくら」。双子の彼らは、時にグロテスクなほど独特な行動を取りながら、厳しい現実と向き合います。激動の中を生きる子どもたち、という点で『悪童日記』は『わたしは真悟』を想起する部分がありますが、その後の青年期から老年までと続く2、3作目もマスト。続きは読んでのお楽しみです。わかりやすく感動できるものが読みたい方に、真の読書体験として強くおすすめします。抒情を一切描くことなく、物語や登場人物を立体的に見せてしまうクリストフの文才に震えるはず。(日本の暮らしコンシェルジュ・浪花)



サイボーグ化する動物たち

- ペットのクローンから昆虫のドローンまで

エミリー・アンテス | 白揚社

バイオテクノロジーによる遺伝子組み換え、クローン、人工装具・センサー装着、サイボーグなど、改造動物の最前線。「動物を愛しながら一方で道具としての役割を期待する」という人間の倫理観は、真悟が会う多くの登場人物の顔に見え隠れしています。「『ロボット』を愛しながら一方で道具としての役割を期待する」。人間と人間でないものの境がますます曖昧になる今、「バイオアート」と合わせて読みたい新刊本。(アートコンシェルジュ・宮内)



バイオアートーテクノロジーは未来を救うのか。

ウィリアム・マイヤー | ビー・エヌ・エヌ新社

ボリュームたっぷりのカラー図版と簡潔にまとめられたテキストによって、ページをめくると未知の作品に出会うことのできる一冊。発芽したアイデアや新しく生まれた価値が引き起こす未来への影響について問いかけてきます。産業ロボットと出会い、「真悟」が発芽するまでの過程で描写された、悟と真鈴のロボットへの探究心と能力向上への溢れんばかりの情熱は、まるで、まだ見ぬ何かを生み出そうとするアーティストたちのようです。(宮内)



美しい日本の廃墟 いま見たい日本の廃墟たち

ヨウスケ | エムディエヌコーポレーション

日本各地で撮影された、魅惑的な廃墟の写真集。時代に取り残された建造物の朽ち果てた姿は、産業用ロボットが「真悟」となって工場を脱出し、彷徨い、時に潜伏しゴミ処理場や下水道、船艇などを想起させます。日本の産業の発展と衰退が静かに香る美しい写真集です。(宮内)



孤島の鬼

江戸川乱歩 | KADOKAWA

主人公・蓑浦には、初代という婚約者がいます。彼女は、自身の生い立ちを知る唯一の手がかりである家系図を宝物のように肌身離さず持っていました。しかしある日突然、初代は何者かに殺され、家系図を奪われてしまいます。蓑浦は、初代を殺したのは、自分に思いを馳せている美青年・諸戸ではないかと疑い、犯人を捜しますが……。『孤島の鬼』で描かれている、それぞれの過剰な「アイ」も最高に面白いので、合わせてどうぞ。(浪花)



クエイ兄弟ファントム・ミュージアム

the Quay Brothers | 求龍堂

世界中でカルト的な人気を誇り、多くのアーティストたちを魅了し続ける双子のアーティスト、クエイ兄弟。そのアジア初となる個展の公式図録である本書では、アニメーション、映画、CM映像、舞台美術作品など多岐にわたる制作の秘密に迫ります。時に残酷でユーモアに満ち、子どもと大人の世界を行き来するような錯綜した世界観は、『わたしは真悟』の主人公たちの活劇に通ずるものがあります。(宮内)



ならずものがやってくる

ジェファニー・イーガン (谷崎由依訳) | ハヤカワ epi 文庫

登場人物がつながり、短編をひとつの物語のように読ませるという手法はよくありますが、『ならずものがやってくる』で見せるジェニファー・イーガンの手腕は、そんな形式を超えています。パワーポイントを使って書いてしまうほど、登場人物ごとにとがらりと変わる文体。そして、それぞれの過去と未来を行き来し、キャラクターを浮き彫りにしてゆく面白さ。楳図節炸裂の『わたしは真悟』と比較して、いわゆる「キャラ立ち」の多様性を考えるのもよいかも。(浪花)



結婚式のメンバー

カーソン・マッカーズ (村上春樹訳) | 新潮社

永遠に子どもでいたいと強く願う一方、「ふたりの子どもをつくりたい」という矛盾も抱える『わたしは真悟』の悟と真鈴。この『結婚式のメンバー』の主人公・フランキーも、成長の過程で矛盾や葛藤、孤独を抱えます。なぜかむしろ、この街を出てどこかに行ってしまう——、そして彼女は、チャンスは兄の結婚式でやってくるかと夢想します。子どもと大人の間立ち、ここではないどこかを夢見るとい話は珍しくありません。むしろ、誰しもが持つ普遍的な願いかもしれません。この作品もそう、『わたしは真悟』もそのひとつだと思っています。(浪花)



トランスフォーメーション

中沢新一 長谷川裕子 | ACCESS

同名の展覧会で展示された作品群がまとめられた展覧会図録。人体の変容方法に動物的要素が色濃くみられる表現が多いものの、人間の領域を越えようとする欲望の表出は、産業ロボットという容器に突如発生した自我によって、自らを変容させ新たな能力を駆動させる「真悟」と似た力が感じられます。恐怖と同時に、これから世界はどうなっていくのかという好奇心を駆り立てられる作品が集められた一冊。(宮内)



アリとキリギリス

ジャン・デ・ラ・フォンテーヌ | 宝島社

イソップ物語から西洋に伝わる知恵の寓話集全80話。天才版画家ドレの挿画が各所に散りばめられ、その冴え渡る描写では時に動物たちが擬人化され、新鮮な解釈を現代に示してくれます。「自分は何者であるのか」「何のために生きているのか」自我だけでは生きていけない人間と同じように知性の下でも「真悟」の隣に座って読みたい物語の数々。(宮内)



ロングロングケーキ

大島弓子 | 白泉社

不思議な夢から目覚めると、何にでも変身できる力を持った宇宙人の宇(うー)さんが現れた『ロングロングケーキ』。亡くなった妻が長女に憑依して、夫の様子をうかがいにやってきた『庭は緑川はブルー』。そのほか6つの短編を合わせた大島弓子の作品集。大島作品は一見ファンタジーのように見せながら、いつも「永遠はない」という現実を語ってきます。「ぼくの 永遠というのは こういうことなんだ」(『ロングロングケーキ』より)(浪花)

京都岡崎 蔦屋書店

ゆったりと落ち着いた空間の中で、本やギフト雑貨、イベント等を通じてライフスタイルの提案をし、「心を動かすモノ」との出会いをお届けする書店です。

〒606-8342
京都府京都市左京区岡崎最勝寺町13
ROOMシアター京都
パークプラザ1階

営業時間：8:00-22:00
定休日：年中無休
近隣の催し物等により、休業する場合がございます。

蔦屋書店
TSUTAYA BOOKS

